



月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

令和4年



■塗りつぶしの日は休館です。

『素敵な空が見えるよ、明日もきっと』

リト@葉っぱ切り絵/講談社/726.9 円

ようこそ、小さな優しい7つの森へ。あたたかい気持ちになれる森、ひとりじゃないと思える森…。どこでも好きな森から訪ねてみてください。心を癒す葉っぱの上の78の物語と、それを表現した葉っぱ切り絵を収録。

小さな葉っぱの中に広がるかわいいストーリー。見ているだけで癒されます。



『あなたのなつかしい一冊』

池澤夏樹/毎日新聞出版/019.9 円

子どもの頃に出会った本、大人の世界を知った本、迷ったときに帰る本。井上荒野、川上弘美、尾崎世界観、桜木紫乃など、人気作家50人が「自分だけの一冊」を選ぶブックガイド。『毎日新聞』連載を単行本化。



『SNS 別最新著作権入門』

井上拓/誠文堂新光社/021.2 円

弁護士が SNS で気をつけるべき著作権問題をわかりやすく解説。著作権法の基本はもちろん、肖像権やプライバシー権などにも触れる。他人の作品を正しく利用する方法や、炎上したときの対処法も掲載。

『なりたい自分との出会い方』

岡本啓史/岩波書店/159.7 円 青少年

将来の夢、まだ決まっていなくても大丈夫! ダンサー、舞台役者、料理人、教師を経て、現在は国際協力機関で働く元・落ちこぼれ中学生が、若者に向けて、学び方・働き方が多様になる時代に自分らしく生きる方法をアドバイス。

『「推し」の科学』

久保(川合)南海子/集英社/141.5 円

「いま、そこにはない」ものに思いを馳せること、それを他者と共有できることは人間ならではの「知性」である。「推し」をめぐるさまざまな行動を端緒として、「プロジェクション」というところの働きを紐解く。

『世界の偉大な日記図鑑』

DK 社/東京美術/209 円

レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿、松尾芭蕉の紀行文、ゴッホの手紙、アンネ・フランクの日記…。歴史を変えた世界の日記・書簡80点を、時代背景や予備知識なども盛り込み、豊富な図版とともに紹介する。

『今こそ学びたい日本のこと』

蜂谷翔音/地球の歩き方/291 円

1万人の訪日外国人を案内したガイドのプロが、日本人にこそ伝えたい日本の魅力を紹介。マンガやアニメというようなジャパニーズカルチャー、日本食や職文化などを解説する。現役ガイドのおすすめゴールデンルートも掲載。

『忘却にあらがう』

東浩紀/朝日新聞出版/304 円

いま必要なのは、「意味」を探る力である。2017年から2022年まで、5年間にわたって哲学者・東浩紀が書き綴った時評集。『AERA』『文藝』掲載を書籍化。

『老いの玉手箱』

樋口恵子/中央公論新社/367.3 円

ムズカシイ母親、我が子と不仲、長期介護、ダメ夫、問題な義父母、老いるの恋…。人生100年時代の悩みに、樋口恵子が答えます。言葉の「妙薬」でスッキリし、前向きになれる一冊。

『「ヤングケアラー」とは誰か』

村上靖彦/朝日新聞出版/369 円

長期脳死の兄の「身代わり」として、親の前で頑張っている子。ろう者の母親を手話通訳するうちに「私」が消えていく子…。介護や家事労働だけが「ケア」ではない。ケアする子どもたちが体験する孤立を「語り」から考える。

『空の見つけかた事典』

武田康男/山と溪谷社/451 円

日暈、副虹、赤い月、笠雲…。年に数回以上見られそうなものから、一生のうちに見られればラッキーなレアなものまで、さまざまな空の現象を見つけるコツを著者自身が撮影した美しい空の写真を使って解説する。

『直立二足歩行の人類史』

ジェレミー・デシルヴァ/文藝春秋/469.2 円

なぜ人間だけが二足歩行動物として生き延びたのか。足・足首を専門とする人類学者が、古人類学のレジェンドから現代人の歩き方まで、研究現場を訪ね歩いてたどりついた、「二本足が人間に人間性をもたらした」真実を伝える。

『へんてこな生き物』

川端裕人/中央公論新社/480.4 円

森の中を飛ぶ水生哺乳類アマゾンマナティ、手のひらサイズの巨大な虫…。常識を軽く超えてくる「へんてこ」な生き物たちを、新しい科学的なトピックもまじえながら楽しく紹介する。200枚超の撮り下ろし写真も掲載。

『すべてのカーブにはわけがある』

米屋こうじ/交通新聞社/516.1 円

鉄道路線は平坦な場所に直線で敷くのが最も理想的。だが山地が多い日本では、それが難しい。全国のカーブする路線のなかから特に興味深い誕生の物語を厳選して紹介する。『旅の手帖』連載「鉄道時間旅行」を書籍化。



『家庭の魚料理』

川上元代/グラフィック社/596.3 円

自分で魚をさばいたら「新しい美味しさ」に出会える! アジの刺身(三枚おろし)、スズキのフリカッセ、スミイカのバエリアなど、旬の魚や魚介をさばく手順を連続写真で掲載し、それらを使ったレシピを多数紹介します。

『愛犬ラッキーの生涯』

岡村喜造/文芸社/645.6 円

私を幸せにしてくれたのは、かつて人間に捨てられた犬でした。滋賀県動物保護管理センターでの保護犬ラッキーとの出会いから、災害救助犬を目指して試験に合格し、やがて高齢になったラッキーが天国へ旅立つまでを綴る。

『木箱ラベルの時代』

林健男/IBCパブリッシング/675.1 円

戦後間もない時期にスケッチ屋さんと呼ばれた画家を志す人々の手によって描かれた、野菜の木箱ラベル。昭和レトロの真骨頂である希少なラベル342点を収録。海外のラベルも掲載。

『「美味しい」とは何か』

源河亨/中央公論新社/701.1 円

「美味しい」「まずい」は、好みの問題…? レビューサイトは純粋に食事を楽しむ邪魔? インスタントラーメンは芸術か? 絵画や音楽ではなく、身近な食事から扉を開く、やさしくも奥深い美学入門。

『ふしぎなことばことばのふしぎ』

池上嘉彦/筑摩書房/804 円 青少年

ふとしたきっかけで、「ことば」はふしぎな姿を現してくる。新しい世界を創ることば、「ヤマシ県」と「オワリノ国」、名前をつけることの意味…。聖書や童謡、俳句など、さまざまな例を通して、ことばのふしぎを考える。

『英語は決まり文句が8割』

中田達也/講談社/834.4 円

第二言語習得のプロが伝授する、最小の努力でネイティブに近づく英語学習の新定番。英語学習における定型表現の知識の重要性、定型表現の奥深い世界を解説し、定型表現を効率的に身につけ、4技能を伸ばす学習法を紹介する。

『物語のカギ』

渡辺祐真/スケザネ/笠間書院/901.3 円

読書という旅を豊かにするガイドブック。物語の基本的な仕組みから、もっと深く読むための視点、自分の人生経験を投影してみる個人的な方法、能動的な読みの工夫まで、物語をもっと味わえるようになる「カギ」を紹介する。

『一生のお願い』

高橋久美子/筑摩書房/914.6 円

“生きる”ことは日々を“作る”こと。詩、小説、作詞、絵本翻訳と「言葉」の世界で活躍する著者の10年間が詰まったエッセイ集。『webちくま』や自身のホームページ掲載に加筆し書籍化。

『海とジイ』

藤岡陽子/小学館/F 73 文庫

漁師として生き、現在は末期ガンを抱えるジイと、いじめが原因で不登校となったひ孫が交わした約束…。『海神』など、海と島を舞台に3人のジイの生き抜く姿と、そのジイから想いを受け取る人々の心模様を描いた3編を収録。